

F P まつもと通信

ちょっと得する「お金」や「資産形成」の話題をお届けします。

ご挨拶

記録的な猛暑で秋が待ち遠しいと感じていた人もいるのではないのでしょうか？

7月31日の日本経済新聞によるとこの7月の地球の平均気温は12万年ぶりの高さだったそうです。

何層にも積み重なった氷や雪の層の気泡に含まれる二酸化炭素などの温暖化ガスの濃度により推察するそうです。氷層の気泡で何万年も前の気候がわかると聞くとロマンを感じますね。

一方熱波で水害、干ばつ、山火事なども世界各地で大規模に起こっています。日本も台風の季節本番です。台風や水害は準備ができる災害です。しっかり備えて少しでも被害を少なくしたいですね。



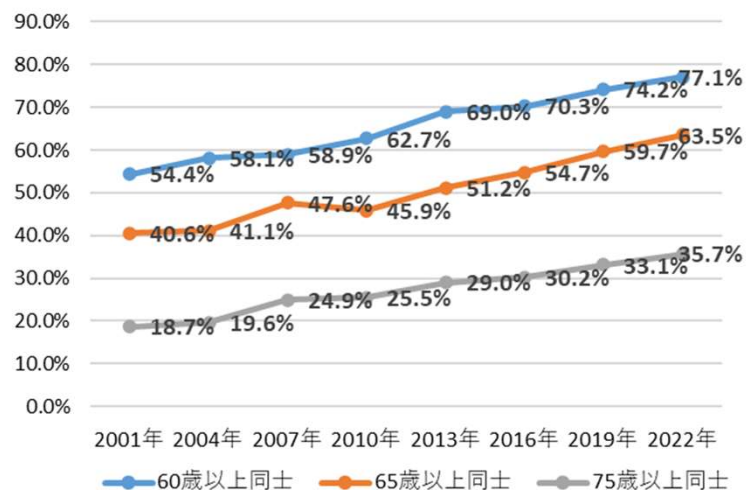
今月号のちょっと気になるお金のコラム

金融リテラシーの日米比較は国民性が出ていて興味深いですね。日本人は複利が苦手、だそうです。あなたがはいかがですか？

老老介護 75歳以上同士35.7%

厚生労働省は7月に「2022（令和4）年 国民生活基礎調査の概況」を公表しました。国民生活基礎調査は、保健、医療、福祉、年金、所得などの国民生活の基礎的事項を3年ごとに調査しているものです。

その中で注目しておきたいのは介護、特に老老介護です。下図は要介護者と同居の介護者の年齢の組合せの推移です。



75歳以上同士の介護が35%以上というのは少し驚きですね。老老介護は体力的負担、精神的負担から共倒れの心配もあります。同居の家族に介護してもらいたい、という気持ちは気持ちとして少しでも負担を減らせるように外部サービスを利用できるように備えておく必要があるのではないのでしょうか？



F P 松本相談センター
ファイナンシャルアドバイザー
媚山裕之

〒390-1702

長野県松本市梓川梓856-26

0263-76-1250

090-8741-7358

info@fp-matsumoto.com

<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。

国も勤める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

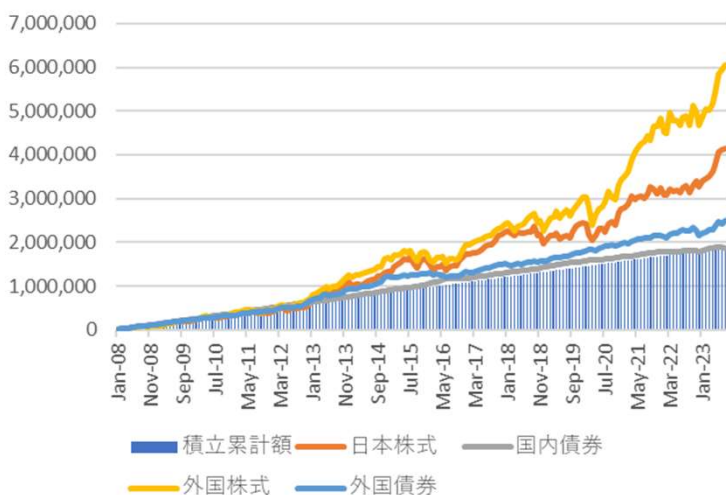
下図表は2008年1月から積立投資をした場合のシミュレーションです（MS社インデックスファンド基準価額データを利用）。図①は国内外の株式・債券の種類ごとの積立投資の推移を表しています。図②は外国株式ファンドと外国債券ファンドに積立投資をした場合の積立開始時期による成果の違いを表しています。この2つのグラフを見ると、確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切であることがわかります。

投資期間に応じた資産配分：積立期間が長い場合には株式の割合を多く、まとまった資金の受取予定が近い場合には株式の割合を少なくする

大幅に値下がりした場合：積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する

長期継続する：値動きや値動きを解説するニュースに惑わされず長期継続する

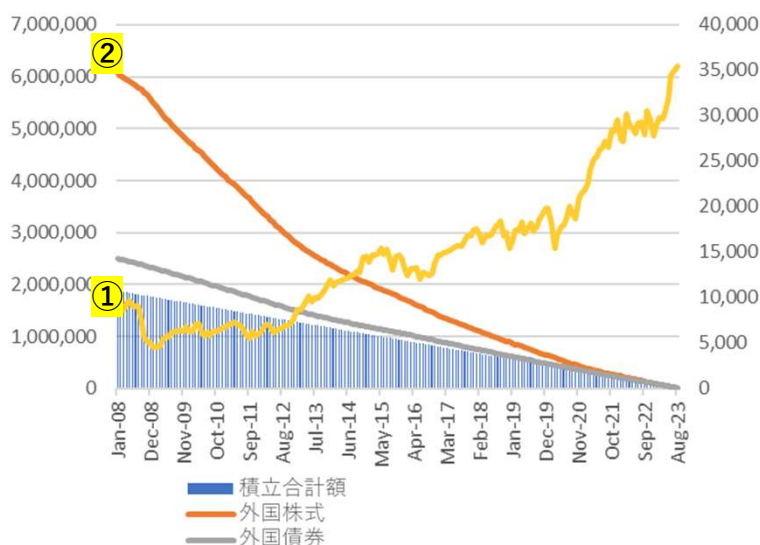
① アセットクラスごとの積立投資の推移



	Jun-23	Jul-23	Aug-23
積立累計額	1,860,000	1,870,000	1,880,000
日本株式	4,054,466	4,123,573	4,149,871
国内債券	1,895,388	1,875,428	1,871,283
外国株式	5,855,268	5,952,021	6,062,920
外国債券	2,470,083	2,425,807	2,500,656

2008年1月からの積立投資の推移です。株式は値動きは大きい一方値上がりも期待できません。債券は値動きは小さく値上がりも小さいことがわかります。従って長期の積立では株式をメインに、まとめて取崩す予定がある場合は株式の割合を少なくします。

② 積立開始時期ごとの積立合計と評価額



2008年1月に始めた積立投資の合計額①188万円（青棒）は2023年8月に②606万円（オレンジ線）、約3.22倍になりました。グラフの左の方は積立合計（青棒）に対して現在の評価額（オレンジ線）が大きく上の方に離れているのに対しグラフの右の方はその差が小さくなっています。つまり投資の成果は概ね積立期間に連動していると考えられます。

外国株式に10年（120万円）積立をした場合の最大値、最小値、平均値は下表のようになりました。

最大	2,640,931	2012年1月 ~ 2021年12月
最小	1,747,373	2010年4月 ~ 2020年3月
平均	2,274,688	データ数：69

確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

米国価格下げ

	日経平均		NYダウ		ドル円
Jun-23	33,189.04	7.45%	34,407.60	4.56%	144.27
Jul-23	33,172.22	-0.05%	35,559.53	3.35%	142.32
Aug-23	32,619.34	-1.67%	34,837.71	-2.03%	146.26

8月の株式市場は、米国債の格下げ、利上げ継続懸念、中国不動産大手の恒大集団による米破産法適用申請や碧桂園の資金繰り懸念などが重しになりました。

注目されていたジャクソンホール会議でのFRBパウエル議長の発言は、「データ次第では利上げの可能性を排除しない」という主旨でしたが市場予測の範囲内で大きな波乱材料にはなりませんでした。

公表される経済指標や要人の発言などで株価は日々動きますが短期の値動きと値動きを解説するニュースに惑わされずに投資を継続することが長期の成果に結びつくと考えています。

円安局面で積立を開始しても大丈夫ですか？

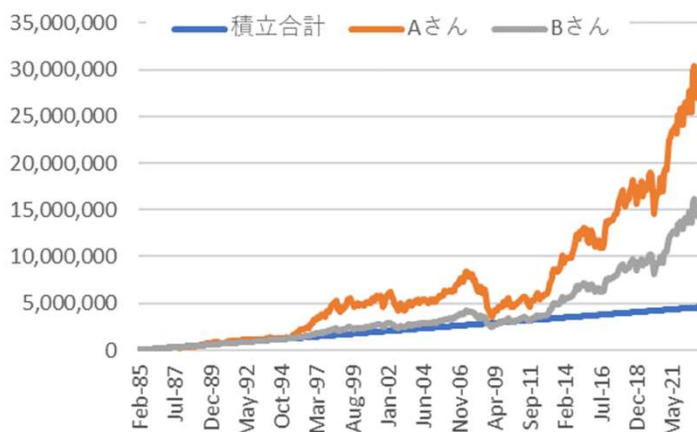
つい最近まで1ドル100円ぐらいだったのが現在は140円を超えています。ドル資産を購入する場合はその分割高になっているので外国株の積立を始めるのはまた円高になってからにしよう、と思っている人もいるかもしれませんね。

下図は1985年から2023年7月までのドル円相場とNYダウ平均株価の推移です。



1985年2月に259円だったドル円レートは2023年7月時点で141円に、最も円高だった2012年1月には1ドル76円と大幅な円高になりました（1ドルを得るのに259円必要だったが1ドルを円にもどしたら76円になっていた）。

下図は1985年2月から2023年7月までNYダウ平均株価に毎月1万円積立をした場合の推移を表しています。Aさんは1ドル250円の円安局面から積立開始しました。一方Bさんは急激に円高になった①の期間は投資せずに現金を積立（107か月分107万円）、円高が収まった94年1月からNYダウ平均の積立をした場合の推移です（107万円の現金＋毎月1万円の積立）。



	1994年1月	2012年1月	2023年7月
積立総額	107万円	324万円	462万円
Aさん	131万円の評価額	538万円	3120万円
Bさん	107万円の現金	343万円	1652万円

積立開始当初の①の期間、Aさんはかなりドキドキしたかもしれませんがこの時に購入した分がのちに約1500万円もの差を作りました。

株式の値上がりが円高のマイナスを十分にカバーしていたことがわかります。積立投資ではタイミングよりも期間が重要だと理解しなるべく早く始めることが大切です。

ちょっと気になるお金のコラム

まず最初に問題です。

100万円を年率2%の利息がつく預金口座に預け入れました。5年後の口座残高は下記1から4のどれになりますか？

(この口座への入金や出金はこれ以外ない。利息にかかる税金は考慮しない)

1. 110万円より多い
2. ちょうど110万円
3. 110万円より少ない
4. 上記の条件だけでは答えられない

これは「金融広報中央委員会」が昨年行った金融リテラシー調査の中の1問です。このニュースレターをお読みの方にとってはやさしい問題だと思いますが正解率は42.5%と少し低いという印象です。下表は一部の設問に対する日米比較です。

日米の正答率(%)

	日本 2022年	米国 2018年
①複利	43	72
②インフレ	55	55
③住宅ローン	68	73
④分散投資	50	43
⑤債券価格	24	26
⑥72の法則	41	30

上記問題は複利についての知識を問うものですが日米で大きな差が出ています。長いことゼロ金利が続いたことで複利によってお金が殖えるという感覚がなくなってしまったのかもしれない。

下表の比較も国民性が表れているようで興味深いですね。「緊急時の備えがある」「借りすぎしていない」「老後の必要資金の認識」など備えについての項目では日本が米国を上回っています。

とても当てはまる、当てはまる、と答えた人の割合(%)

	日本 2022年	米国 2018年
金融知識に自信がある人の割合	12	71
緊急時の金銭的備えがある人の割合	57	49
借り過ぎと感じている人の割合	12	37
教育費を確保している人の割合	37	38
金融教育を学校等で受けた人の割合	7	20
退職後の生活費の必要額を認識している人の割合	51	41

これからは高齢化による長い老後に向けて「守り」だけではなく上手に殖やす知識も必要になってくるのではないのでしょうか？

どのようにすればよいかの確認・相談をご希望の方はお問合せください。

問題の回答

答えは「1」110万円より多い、です。

$$\begin{aligned} 1 \text{ 年目} & 100 \times 2\% = 102 \\ 2 \text{ 年目} & 102 \times 2\% = 104.04 \\ & \cdot \\ & \cdot \\ 5 \text{ 年目} & = 110.40 \end{aligned}$$

利息にも利息が付くので110万円よりも大きくなります。